

わたしにとっても宝物

2015年以降に取り上げた「まだまだ勝手に関西遺産」は260編。読者の皆さんに印象深い「遺産」を思い出とともに募ったところ、多くのメールやお便りをいただきました。その中から4人の方を紹介します。

勝手に関西遺産

読者の思い出に残る傑作選

記事を見て興味を持ち、2018年11月にミュージアムを訪ねました。最初は怖いイメージがありましたが、館内は非常に明るく普通の美術館

兵庫県尼崎市のシャレコーベ・ミュージアム。ドクロをデザインした生活雑貨や骸骨人形、ドクロの仮面といった民族学資料のほか、本物の頭蓋骨も展示する。脳神経外科医で関西医科大学名誉教授の河本圭司さん＝写真、故人＝が2011年に自宅庭に開館した私設博物館 =2018年10月24日掲載

神戸市東灘区

藤永 定良さん (71)



のようで、不気味な感じはまったくなし。本物の頭蓋骨も展示されていて驚きましたが、生々しさはありませんでした。見ているうちに、人間は死ねばみんな同じ姿になるんだなと一種の無常感を覚えました。逆に、生きていっているうちには、生かす生かされる関係、との思いが一層強くなりました。

見学後に「頭蓋骨・シャレコーベ入門試験」に挑戦し合格。展示の説明板を眺んでいると、河本館長から合格証を手渡されました。その河本館長が19年夏に亡くなったことをこの春知りました。残念で寂しい。(真福をお祈りします。)

朝礼ネタ執筆に誇らしさ

兵庫県三田市 國枝 亜佐美さん (58)

「月刊朝礼」が掲載されたときは驚きました。実はここに原稿を書かせていただいているからです。30年近く前にライター募集に採用され、以来月に数回載せてもらっています。ポイントなどもあります。自分が少しでも関わる雑誌が、「関西遺産」に取り上げられるほど大きな存在と見てもいいのかなと誇らしく、執筆のエネルギーが倍増しました。よりいいものを書こうと責任感も強まりました。ネタ探しには苦労します。新聞の声欄や本、テレビ番組などを参考にし、常にメモを取っています。読んだ人の励みになり、その会社の業務にプラスになるものを書くことができています。関西に住んで三十数年。「関西遺産」を読むたびに、関西の歴史の奥深さやバラエティーの豊かさを感じ入っています。

大阪市北区のコミケ出版が発行する「月刊朝礼」は、会社の朝礼で使えるネタを提供する雑誌。1日1話、偉人の行いやスポーツのエピソードなどをつづり、教訓で締めくくる。約2千社が定期購読する =2020年1月9日掲載



ライオン像 守り神のよう

大阪府池田市 石井 信夫さん (62)

ライオン像の原型を作った兵庫県三田市出身の彫刻家・天岡均一さんは、私の母方の親戚にあたります。そのことを、今年100歳になった母は、私が子どものころから時折、さりげなく自慢していました。私の自宅近くの病院にも天岡さん作の胸像があり、親しみを感ずっていました。社会人になってからは、仕事が大変か、かないかなと心が折れそうになると、難波橋のライオン像に会いに行こうようになります。口を閉じたライオンは黙って私の悩み聞いてくれ、口を開けたライオンは励まし言葉をかけてくれるような気がします。私にとって、守り神のような存在。思いが高じて、本籍地を難波橋の住所に移したほどです。先日、和歌山にある5頭目のライオン像も見てきました。遠い親戚に会えたようでうれしかったです。

中之島をまたぎ、二つの川にかかる難波橋(大阪市北区)。北側と南側に一対ずつ、4頭のライオンの石像が鎮座する。いずれの対も1頭は口を開け、1頭は閉じる。彫刻家の天岡均一が原型を手がけ、1915年に設置された。実は5頭目が和歌山市に存在した =2015年10月7日掲載



無常感覚えたドクロの館

結婚は「夜クネ」のお陰?

兵庫県西宮市

内藤 順子さん (56)



1988年の春、角津一さんたちが「夜はクネクネ」の取材で西宮市の関西学院大学へ来られました。学生だった私と当時付き合っていた彼は夕方、大学前の通りを歩いていたところ、突然ライトを照らされ、角さんと原田伸郎さんに声をかけられました。「付き合っているの?」将来はどうするの?などと取材を受け、後日その様子が放送されました。直後は大学や電車の中で「夜クネに出ましたよ」と知らない人によく声をかけられ、就職してからも同僚から「出たの覚えてる」と言われました。そのときの彼は89年の秋、結婚しました。番組のお陰かもしれません。放送局から贈られた取材当時の写真は今も大切に取っています。今は2人の子どもにも恵まれ、幸せに暮らしていることを角さんと原田さんにお伝えしたいです。

絵はいづれもツレコリ青山